

《巻頭言》

# プレーンパッケージを考える

宮崎恭一

日本禁煙学会理事・総務委員長

2016年5月31日の第29回世界禁煙デーのテーマが、厚生労働省は、「受動喫煙から守ろう」でしたが、WHO（世界保健機関）では、Get Ready For Plain Packagingでしたので日本禁煙学会としては、「プレーンパッケージをめざそう」と翻訳しました。

WHO（世界保健機関）がネットで配信した世界禁煙デーに関する情報<sup>1)</sup>によりますと、「タバコのパッケージは動く広告です。タバコの消費を増やす役割を果たしています。タバコのパッケージデザインは、タバコをより魅力的に見せ、タバコ消費を宣伝して広めます。それだけでなく、有害警告表示から注意をそらし、禁煙せずに、より害の多いタバコに替えましょうと喫煙者を欺く役割も果たしています。もし、タバコのパッケージから、これらの装飾や光沢など人を欺く要素が完全にはぎ取られたなら、残るのは、毎年600万人の命を奪い、それ以上の人々を不健康に追い込む、依存性のある、恐るべき商品を入れた箱に過ぎなくなるのです。プレーンパッケージ

化は、タバコ製品が悲劇と不幸をもたらす商品に過ぎないとの認識させるうえで大きな助けになります。」とあります。

## カナダからさらに進んでオーストラリアが決断

2000年、カナダはタバコのパッケージに警告表示として文言と一緒に写真やイラストを載せる決議をし、2001年から施行されました。これはセンセーショナルな評判を呼び、現在80か国が採用するようになりました。さらに進んで、2014年のモスクワでのタバコ規制に関する世界保健機関枠組条約(FCTC)の第6回締約国会議(COP6)において、大注目を集めたのが、オーストラリアが打ち出したプレーンパッケージ構想でした。オーストラリア政府の決断で、2012年12月1日より法制化されました。その結果、フィリップモリス社や日本たばこ産業らがオーストラリア政府を相手取って、表現の自由を侵害するものとして訴訟がありましたが、最高裁によ



WHO世界禁煙デーのテーマより

り、表現の自由よりも健康の問題の方が重要であるとの判決が出て、オーストラリア政府は、パッケージの規制をし、80%の警告表示とロゴマークを排除した、どぶ色(ココア色とも言います)の面にブランド名を入れるだけという、吸う人にとっては魅力のないパッケージを義務付けたのです。

### FCTC 第11条に則って

2008年11月にFCTCのCOP3が南アフリカはダーバンで開催され、第11条タバコのパッケージに関するガイドラインが採択されました。「3年以内にタバコ製品の包装およびラベルについての効果的な措置を採択及び実行する」よう決議されたのです<sup>2)</sup>。オーストラリアはまさに決議に従い、世界に先駆けて、写真やイラストを載せるだけでなく、ロゴマークも否定する決定をしたことには、日本と違い、政府の健康志向が読み取れます。

オーストラリア政府の決断をバックアップしたのがNGO(非政府組織)でした。タバコ規制政策(Tobacco Control Policy)の部長である、カイリー・リンドルフさんによると、支援のポイントとして3点を挙げています。

1. 禁煙活動を支持するメジャー紙のジャーナリストとの関係を密にして、情報や資金の提供をする。これらのグループははっきりと意見を述べるので、タバコ産業側からの資金で動かされているかどうかを明らかにすることができる。
2. 厚生労働大臣だけではなく、あらゆる分野の政治家と関係を保ち、タバコ会社との関連性が深いと思われたくないように仕向ける。
3. 主要な新聞に半紙大の広告を打ち、国民に対して、どのようなグループや会社がタバコ産業の資金と関連があり、圧力をかけられているかを暴露して、教育していく。

彼女はビクトリアがん研究所の研究員でもあり、プレーンパッケージ訴訟に関しても、大きな役割を果たしたのですが、その体験から、タバコ産業の一般論に乗せられないことだと言っています。たとえば、知的財産の侵害とか、表現の自由だとか、税金に寄与しているとか、個人の自由などに議論が進むと、タバコ産業は国民の支持も得られると踏んでいるのです。そこで、徹底して健康問題として扱い、喫煙率を下げ、死亡率が下がるという事実を突き

つけることだということです。特に子どもたちの将来を考えて、依存症から守り、健全な社会を構築するために行動をするのだということを理解してもらおうのです。

### プレーンパッケージを全国共通の基準に

先に書きました、WHOによる世界禁煙デーのパフレットに「プレーンパッケージ化」という表現がありますが、各国での規制ではなく、タバコという製品に関しては、すべて統一された規制が必要ではないかという提案です。すなわち、「タバコの箱にロゴ、色彩、ブランドイメージや販売促進の役割を果たす一切のデザインを禁止し、ブランド名と商品名を決められた色とフォントだけで表示する」<sup>1)</sup>こととなります。さらに、パッケージの形や、フォントも統一化し、無味乾燥なものにするわけです。反対に、有害警告表示やニコチン・タール含有量はしっかり載せなければなりません。

### 世界への広がり

オーストラリアに続いて、アイルランド、英国(2015年3月可決、2016年5月施行)、ハンガリー(2015年10月可決、2016年5月施行)、フランス(2015年11月可決、2016年5月施行)がプレーンパッケージ採用に踏み切っています。さらに11か国(ベルギー、チリ、バーレーン、クウェート、オマーン、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、アイスランド、ニュージーランド、ノルウェー)が法律制定過程にあり、8か国(カナダ、フィンランド、リトアニア、ナイジェリア、パキスタン、パナマ、南アフリカ、トルコ)が法律制定を予定としています。

日本では、タバコのパッケージに写真やイラストを入れることさえ、まだ動きが見られませんが、今後、諸外国のエビデンスを集めながら、多くの政策担当者を説得していく必要があります。

### 文献

- 1) 世界禁煙デー(WHO)のパフレットの翻訳(プレーンパッケージをめざそう)(松崎道幸訳)  
<http://www.jstc.or.jp/uploads/uploads/files/2016WNTD.pdf>(日本禁煙学会ホームページ2016年4月24日掲載)(閲覧日:2016年5月31日)
- 2) FCTC(タバコ規制枠組条約)ポケットブック 日本禁煙学会 2011年5月